

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育スタジオspark南茨木		
○保護者評価実施期間	2026年1月29日		～ 2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	75名	(回答者数) 46名
○従業者評価実施期間	2026年1月29日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年4月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童が通所を楽しみにしている。保護者が事業所の支援に満足している。	・「共動・共感」をすることで児童と同目線になり関わりを深めている。 ・児童が「やりたい」と思える事を、全力でできること。	・動画を活用した「からだあそび」療育、思考の幅をひろげる「こころあそび」など、新しい取り組みも進めていく。 ・児童の感情がより豊かに発達するよう、療育士もさらに表現力をのばしていく。
2	・職員の配置が適切である。	・一人の児童に一人以上、療育士が担当している。	・児童の発達段階に応じて、配置数を検討する。 ・質の向上のため、定期的に研修を行い、対応できるようにする。
3	・保護者の方に、寄り添うことができる。	・保護者の方からの相談、悩みに対して、時間を確保して相談、援助を心がけている。	・保護者の方や児童の様子をよく見て、表情等に变化があった時には、スタッフよりお伺いの声を掛けていけるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の活動プログラムが固定化されないよう、さらに工夫を広げていく必要がある。	・これまで通りの運動療育に留まらず、動画を用いた療育や創作系ワークショップなどを、新しい試みを少しずつ実施しているが、まだ新しい試みが始まっていない児童もいる。	・動画を活用した「からだあそび」療育、思考の幅をひろげる「こころあそび」など、新しい取り組みや、創作系ワークショップなど、引き続きプログラムの新しい工夫を続けていく。
2	父母の会の活動の支援や、保護者回答の開催等による、保護者同士の交流の機会が、まだ十分ではない。	・保護者交流会の実施はしているものの、回数が少ないのが、交流が充分でない要因である。	・保護者様同士の交流の機会は少しずつ提供しているが、より多くの保護者様が参加出来る様、工夫を重ねて参ります。例えば、テーマを設定しての開催など、新しい試みも検討したい。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域でほかのこどもと活動する機会がまだ十分ではない。	・保育所や認定こども園、幼稚園との交流については、一部連携が始まったばかりである。	・現在構築しつつある保育所や幼稚園との関係をより深く、今後の児童の交流に繋げていきます。フィールド療育にて、近所の方と挨拶や交流をすることをより一層進めたい。